

## 大阪マラソン、神戸マラソンに団体ボランティアとして参加して

関西支部事務局



大阪マラソン  
給水準備風景

2007年に始まった東京マラソンをきっかけに広がった市民マラソンブーム。スポーツ文化を自分のものとして楽しむ「する」「みる」スポーツに加え、スポーツにおける「ボランティア」活動が新たにその意義・価値を認められるようになってきています。

三井V-Net関西支部では、「ランナーをサポートしたい！」「たくさんの人の力になりたい！」そんな熱い想いを持った方たちとともに、2013年から毎年大阪マラソン、神戸マラソンに団体ボランティアとして参加し活動しています。

【2017年11月26日(日)第7回大阪マラソン、ランナー:約3万2千人】

天気は快晴、絶好のマラソン日和となりました。私たち三井V-Net28名は、昨年同様20kmという重要な地点での給水を担当しました。

9時半頃、車いすマラソンのランナーが美しい姿にて猛烈なスピードで目の前を走り抜けました。今回は20km地点の最終テーブルでの給水なので、果たしてランナーが手にとってくれるだろうか等の不安もあり、紙コップの置き方に工夫を凝らし待っていると、日本人トップのランナーが給水してくれ「やった！」との思いで一杯でした。その後も「頑張ってください！」と声を枯らして応援しつつ、水を配りました。ランナーの多くは「ありがとう！」の一言を残して走り去りました。



【2017年11月19日(日)第7回神戸マラソン、ランナー:約2万人】



早朝から小雨まじりの風の強い天候でしたが、私たち三井V-Net12名は、スタートから4km地点の「三宮・兵庫ブロック23区」で、一般通行者がコースへ進入することを阻止し、コース運営の安全を図る「自主走路員」を担当しました。

9時12分、早くも先頭集団が走り抜けました。「自主走路員」は、ランナー通過時は、歩道の観客の方を向かなければならないのですが、当日はスタート時着ていた雨合羽を脱ぐランナーの支援をしつつ、笑顔で応援もしていました。

両マラソンとも関西特有のお祭りのように賑やかで華やか、応援がすごいと言われています。沿道のボランティアと観衆の温かい声援が大会を支え自然と心が温かくなります。